

脳の資源には限界がある

ただし、
人間を取り巻く環境は、迷路よりも広範で複雑。



(MIERUNE地図にて描画)



フリー素材屋Hoshinoより

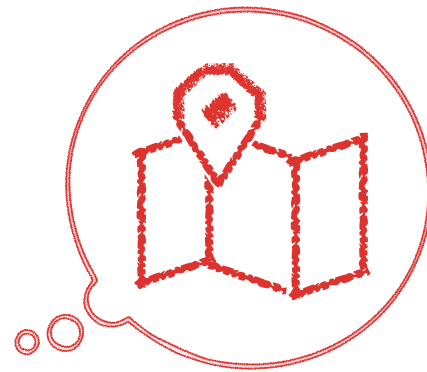
限りある「場所細胞」たちを発火させている要素が別のあ
るのでは？



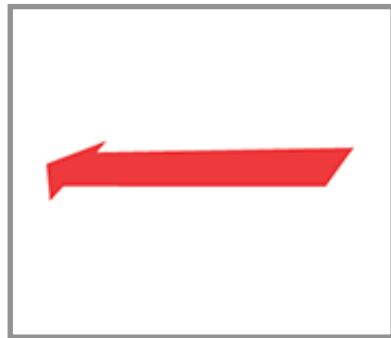
迷路と比べて、人間の認知地図の対象となる実世界の情報量は、非常に多いです。脳資源の限られている私たち人間は、次元削減のために膨大な情報から何かを抽出し、認知地図を作っているはずです。そこで続いては、認知地図の構造について調査しました。

認知地図の構成要素

Lynch, K. : The image of the city.(1960) より



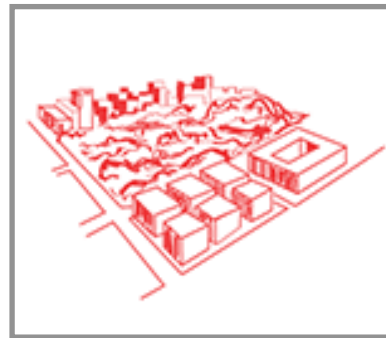
認知地図
(Cognitive Map)



パス
(Paths)



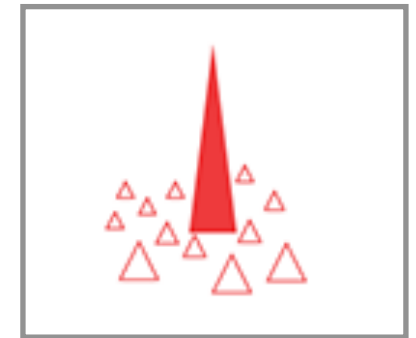
エッジ
(Edges)



ディストリクト
(Districts)



ノード
(Nodes)



ランドマーク
(Landmarks)



Lynch(リンチ)の都市のイメージ調査に関するアンケート調査により、
認知地図は主に5つの構成要素に分解できるとわかりました。